

教育目標

新潟市立高志中等教育学校 学校だより

志の涵養

きらめ

煌き



教育理念

令和3年4月8日発行

自律と互敬

第73号

13期生120名を迎え、令和3年度スタートしました

新入生の皆さん、保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。

6日（火）に令和3年度入学式を行いました。コロナ禍の中での開催にあたり、保護者の方には感染対策によるお願いをさせていただき、ご不便をお掛けいたしました。



校長式辞

うららかな春の日差しが降り注ぐ、この佳き日に、希望と可能性に満ちた百二十名の新入生のみなさんを迎えることができたことを心から嬉しく思います。

入学された皆さん、ご入学おめでとうございます。

高志中等教育学校は、夢を見つけ、夢を志として大きく育て、夢をかなえる学校です。今、みなさんは、6年後の自分の姿をどのように描いているのでしょうか？

自分の希望する大学に合格し、新たな学生生活に胸を膨らませている姿、若手起業家として会社を立ち上げビジネス界に打って出ようとする姿、より広く世界や自分を知るために旅に出る姿、どんな未来がみなさんに訪れるのでしょうか？

どんな未来でもいい、ただ一つだけ大切にしてほしいのは、そこに確かな「志」があるということです。

「志の涵養」という当校の教育目標を実現するためには、まず、「夢見る力」を育ててほしいと思います。

それは、「よりよい未来の具体的な姿、在り方を思い描く力」と言い換えることができるでしょう。

かつて、日本は、敗戦後、高度経済成長をとげ、経済大国として世界から認められました。そのとき、人々は、「便利なものや安全で楽しい生活」を求め、よりよい製品を、効率的に大量に作り出すための方法を考え、実践し、成果をあげました。白黒テレビや冷蔵庫、洗濯機、掃除機などの家庭用電化製品が人々の「便利な生活」という「夢」を

叶えていったのです。

それから、60年経った今、人々はどのような「夢」を抱いて、いるでしょうか？ 特にほしいものもないし、これ以上便利である必要もないと思いつつも、決して満足していない、老後の保障や環境問題など、漠然とした不安にさいなまれる人、夢を持ってない人たちが増えてきているのではないのでしょうか？

高志中等教育学校の生徒のみなさんに思い描いてほしい「夢」とは、自分だけが楽をしたり、幸せになったりすることではありません。自分と周りにいる人。社会や世界が、みんな幸せになる、そんな姿を思い描いてほしいのです。そして、その夢を「実現しよう！」と決意するとき、「志」が生まれます。「志」は、思い描くものではなく、実際に行動することです。今、何をするか、何から始めるか、失敗や間違いを重ねるながら、試行錯誤しながら、決してあきらめずに、形にしていく、強い意思、それが「志」です。

オリエンテーションのとき、みなさんにもご案内した「わくわくエンジンEXPO」、ご覧になったでしょうか？ そこでご講演された山口周さんは、格安航空ピーチを立ち上げるときに、相談を受けたそうです。そのとき、「牛井じゃないんだから、値段を下げて意味あるのか？」と疑問に思ったそうです。しかし、ピーチ航空の社長さんは、「格安航空を実現できれば、世界から戦争をなくすことができる」といったそうです。「どうして？」と聞き返す山口さんに、社長は、こう言いました。「航空運賃の値段が安くなれば、若者や経済的にそれほど豊かなくても多くの人たちが、様々な国に行くことができる、そこで、その国に生きる人たちの生活や文化、価値観などを知り、それぞれの国のよさを実感すれば、互いにもっと分かり合えるはずだ。そうすれば、きっと争いをなくすことができる。」と。

「志」とは、よりよい世界や社会を思い描く「夢見る力」が基盤となります。そのためには、現在の社会や世界を知る必要があります。そして、「志」に高めるためには、「自分に何ができるか」「自分は何がしたいのか」という自分を知ることが不可欠です。

「世界を知ること」「自分を知ること」 みなさんがこの六年間で学ぶことは、この二つしかありません。

すべての教科や総合・探究、部活動、体育祭や文芸会などの行事もすべてこのためにあります。

失敗や間違いを恐れず、積極的に挑戦し、取り組むことで、よりたくさんの学びを得ることができるのです。

そのためには、みんなが、間違いや失敗に対して、受け止め、弱さについて支え合える存在でなくてはなりません。また、挑戦しようとしめない仲間や、しっかりと考えようとしめない仲間に対しては、やさしさと厳しさをもって、関わっていくことも必要です。

表面的な仲よしではなく、同調圧力に支配された友だち幻想から脱却し、学び合う仲間としての関係を築いてほしいと思います。

みなさんは、自分が、高志中等教育学校にふさわしい生徒になれると宣言して選考検査に臨み、それが認められた生徒です。

ぜひ、今の、その気持ちと志を忘れずに、より大きく育ててほしいと思います。

保護者の皆様、本日は誠にありがとうございます。小学校に入学してから六年、あのときとは、体も心も大きく成長したお子様が今おります。親としてどのようにかかわればよいのか、不安を感じる方もいらっしゃるかもしれません。お子さんの、自転車の補助輪はいつ外れたでしょうか？ 補助輪は幼いころ、子どもたちがころばないようについていました。しかしながら、今、どのお子さんも補助輪がもしついていたら、思うように自転車に乗ることはできないでしょう。

これから始まる六年間は、生活や思考や、成長のための補助輪をその子にあったペースではずしていく六年間でもあります。

転ぶ危険はあっても、挑戦と失敗はセットですから、自分で考え、自分で多くを学び、行動し、社会や世界と向かい、それを変えていく力と姿勢を身に付けるために、ぜひ、これまで同様の愛情と、叱咤激励をお願いいたします。ときには突き放し、ときにはぎゅっと抱きしめる。共に学び続けるものとして伴走していただくことをお願いいたします。

私たちも、共に学ぶものとして、この六年間、生徒自らの成長の意志と多様性を大切にし、感動と達成感の中で自ら未来を切り拓いていく力を育てて参りたいと思っております。

どうぞ、学校と仲良くしていただき、力を合わせて、子どもたちの成長を見守り、支えていただきますようお願い申し上げます。

百二十名の皆さんの新たな学校生活のスタートを祝福し、式辞といたします。

令和三年四月六日

新潟市立高志中等教育学校長

上野 昌弘

